

第2学年 図画工作科学習指導案

図画工作・美術科研究室

題材 うわあ びっくり！

指導観

本題材は、生活科の学習で取り組んでいる野菜の栽培および観察をして、感動した場面を、自分の気もちがよく伝わるように表し方の工夫をしながら、のびのびと絵に表すことをねらいとしている。

また、次の4点から、本題材は造形的な資質や能力を伸ばす上で有意義であると考えられる。

生活科の学習で、大きく育ててほしいという願いを込めて栽培し、生長の様子を観察してきた野菜に対する感動を絵に表すことにより、児童は、自分の気もちを意欲的に表現することができる。

自分の気もちを画面の中で表すための色や形などの表し方を考えることができる。

自分の気もちをより明確に表すために、描画材料の使い方や様々な材料の生かし方を工夫して表すことができる。

制作途中や作品完成後に、自分の気もちを明確にしながら鑑賞活動を行うことで、互いの表現のよさや違いに気付いたり、自分の気もちを表すための表し方の工夫を見いだしたりすることができる。

本学級の児童は、これまでの図画工作科の学習において、絵に表す際にパス97%、絵の具97%、鉛筆・色鉛筆90.9%、ペン84.8%の割合で描画材を使っている。また、描画材による表現以外では、ものを貼ることを84.8%の児童が経験している。しかし、切れ込みを入れる・動く仕組みを生かすという表現の工夫は、就学前教育においてはそれぞれ33.3%・66.7%の児童が経験しているが、小学校入学以降は行っていない。

一方、使ってみたい表し方としては、鉛筆・色鉛筆が60.6%、パスと絵の具が54.5%、動く仕組みが51.5%、ものを貼ることやペンは48.5%、切れ込みを入れるのは30.3%の児

童が挙げている。その理由としては、単に表現の楽しさを挙げている児童が多いが、中には自分が表したいことをよりはっきりと表すための工夫としてその表し方を選択したいという児童もいる。

このことから、絵に表す際に、描画材料の特徴を生かした表し方を提示するとともに、描画材料以外による表し方も選択できるようにすれば、児童一人一人が、自分の気もちに即した表現をすることができるのではないかと考えられる。

また、本学級の児童は、これまでの生活科の学習において、一人一人がミニトマト、トマト、ナス、キュウリ、ハツカダイコンの栽培・観察を行ってきている。観察は定期的に行い、形・色・大きさ・触感などその時々野菜の様子を細かく記録している。自分が思ったことや考えたことについてかいている児童もいる。

本題材の指導にあたっては、本題材の学習活動に入る前に、朝の造形タイムなどで様々な材料・用具の特徴やその特徴を生かした表し方を知り、体験できるような場の設定および資料の提示を行う。

そして、まずこれまでに記録してきた観察カードや野菜の写真を見ながら、野菜の生長の様子やその時々自分が思ったことや考えたことについて振り返らせる。児童が表したい自分の気もちを明確にしていけるような図工ノートの工夫も行い、活用させる。そのようにして、児童に表現主題について考えさせ、決定させたい。

つぎに、どのような絵に表すか、大まかな画面構成について考え、線描きをする場を設定する。その際、児童が大きさや配置などを考えることができるように、あたりつけカードの提示を行う。あわせて、自分の気もちをよりよく表すための線描材の選択ができるように、線描材による効果の違いについての資料の提示も行いたい。

また、事前に知り、体験してきた様々な材料や用具の特徴とそれを生かした表し方をもとにして、自分の気持ちを最も表す部分について、どのような表し方をすればよいか、考えさせる。その際、児童自身が表し方に気付くことができるように、描画材の使い方や様々な材料の生かし方についての資料提示や個に応じた支援を行う。児童が新たに思いついた表し方があれば、そのよさを見つけ、自分の気持ちを表すために適しているかどうかを考えさせる。

大まかな構想ができたなら、自分の気持ちをよりよく伝えるための線描、材料や用具、表し方の工夫をしながら絵に表す。児童が自分の表現を広げたり深めたりできるように、制作途中にも互いの作品を鑑賞できる場を設定し、友達の表現を参考にできるようにする。また、図工ノートの記述や児童の活動の見取りをもとにして、児童一人一人が自分の気持ちを明確に持ちながら表現できるような、個に応じた支援を行う。

題材の終末には、作品の中で表した自分の気持ちについて記入した作品紹介カードを提示しながら行う鑑賞活動を設定する。その際、友達の作品のよいところを伝えるためのお礼カードを活用させることにより、互いの表現のよさや美しさを感じとらせるとともに、自分自身の表現に対する満足感や達成感を味わわせたい。

目標

表したい自分の気持ちを明確にもち、絵に表す表現活動を楽しむことができる。

(造形への関心・意欲・態度)

表したい自分の気持ちに合わせて、色や形などの表し方を考えることができる。

(発想や構想の能力)

描画材料の使い方や様々な材料の生かし方を工夫して、表現することができる。

(創造的な技能)

互いの表現のよさや違いに気付いたり、自分の気持ちを表すための表現の工夫を見いだしたりすることができる。(鑑賞の能力)

題材における指導事項・評価規準・指導方法（全9時間）

	学習活動	関 意	発 構	技 能	鑑 賞	具体の評価規準	指導事項	指導方法
表 し た い こ と を 明 確 に す る	1 野菜の生長の様子や自分が思ったこと、考えたことについて振り返り、絵に表したい気持ちを明確にする。 (1時間)					<ul style="list-style-type: none"> 野菜の生長の様子や自分が思ったこと、考えたことについて、たくさんを想起している。(関) 自分が一番表したい気持ちについて具体的に考えている。(発) 	野菜の生長の様子や自分が思ったこと、考えたことをもとにして、絵に表したい気持ちを明確にもつこと。	<ul style="list-style-type: none"> 観察カードや野菜の生長の様子がわかる写真資料を見せ、具体的に振り返られるようにする。 様子や思ったこと、考えたことについて、次々と書き足しながら考えていける図工ノートを活用させる。 表したい気持ちを明確にもたせ、その理由とともに、図工ノートにわかるように記入させる。
画 面 を 構 成 し 下 絵 を 線 描 き す る	2 画面を構成するものの大きさや配置について考えながら画面構成を決め、選んだ描画材を用いて線描きをする。(2時間)					<ul style="list-style-type: none"> 画面を構成するものの大きさや配置について具体的に考えている。(発) ものの配置や大きさ、線描きをする描画材について確かめながら、線描きをしている。(技) 	描くものの大きさや画面上の配置について、表したいことをよりよく表すためにどうすればよいか、考えること。	<ul style="list-style-type: none"> 画面を構成するものの大きさや配置について考える際の参考になるような資料を提示する。 線描きのための描画材とその効果についての資料を提示する。 児童が表したい気持ちを把握し、それを明確に持たせながら線描きをさせる。
表 し 方 を 考 え て 絵 に 表 す	3 絵に表すための材料・用具やその特徴を生かした表し方を考える。 (1時間・本時)					<ul style="list-style-type: none"> 様々な材料や用具、その特徴を生かした表し方のよさを見付けたり、実際に試したりしながら、自分の表し方について考えている。(関) 自分が表したい気持ちを表すために最適だと思う、材料・用具や表し方を考えている。(発) 	様々な材料・用具やその特徴を生かした表し方の中から、表したい気持ちを表すための表し方を、それぞれの効果をもとにして考えること。	<ul style="list-style-type: none"> 本題材の学習活動に入る前に提示した資料や体験、既習内容について振り返らせ、様々な材料・用具やその特徴を生かした表し方をもとにして考えられるようにする。 様々な材料や表し方を試させることにより、最適なものを見付けられるようにする。

	<p>4 選んだ描画材を用いて、工夫をしながら彩色をする。</p> <p>選んだ材料を使って、工夫をしながら表したいことを表す。</p> <p>(4時間)</p>				<ul style="list-style-type: none"> ・ どの部分にどの描画材を用いて、どのような彩色の工夫をするのか、確かめながら彩色をしている。 (発)(技) ・ 一番表したい気もちが表れるところをどのような表し方で表すか、確かめながら表している。(発)(技) 	<p>表したい気もちがよく伝わるような彩色の仕方や材料の生かし方を考えながら表すこと。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ どの部分から表してもよいが、画面が汚れないことや後で表す部分が表しにくくならないことに気を付けて順番を決めるよう、指導する。 ・ 線描の材料についても考えさせ、有効な場合は、再度線描きを行わせる。 ・ 初めの2時間の終わりに中間鑑賞会を開き、互いの表現のよさを見つけさせる。
鑑賞する	<p>5 作品紹介カードを書き、作品を展示する。そして、互いの作品を鑑賞する。</p> <p>(1時間)</p>				<ul style="list-style-type: none"> ・ 自分の作品で表した気もちを具体的に記述したり、活動の振り返りを意欲的に行ったりしている。(関) ・ 自分や友達作品を見て、表したい気もちを表すための、材料や用具の特徴を生かした表し方のよさを見付けている。 <p>(鑑)</p>	<p>自分や友達作品に表したかった気もち、およびそれを表すための工夫について考えながら作品のよさを味わうこと。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 作品紹介カードには、絵に表した気もちについての記述とともに、自身が工夫した点やうまくいったことについても記入させる。 ・ 友達作品のよさを見付け、相手に伝えるために、お礼カードを活用させる。

本時

平成20年10月15日(水)5校時

教室

本時目標

様々な材料や用具の特徴やそれを生かした表し方のよさを見付けたり、実際に試したりしながら、自分の表し方について考えることができる。(関心・意欲・態度)

自分が表したいことを表すために最適だと思う表し方を考え、決めることができる。

(発想・構想の能力)

授業仮説

表したい気持ちを明確に持たせ、その表し方について考えさせるための、様々な材料・用具による表し方の資料提示などの支援の工夫を行えば、児童は絵に表す活動に意欲的に取り組み、表したいことを表すために最適な表し方を考え、決めることができるであろう。

準備

図工ノート

様々な材料・用具およびその特徴を生かすためのかわり方に関する資料

既習内容についての資料

様々な表し方の参考作品

本時の指導と評価の考え方

本時は、自分が表したいことを表すために最適な表し方を、既習内容や様々な資料をもとにして考え、決める活動を行う。

児童は前時まで、様々な材料や用具の特徴、その特徴を生かした表し方について、掲示資料や体験活動を通して学習している。また、自分が表す野菜の様子やそれに対して自分が思ったこと、考えたことについて、観察カードや写真をもとに振り返り、表したいことを決めている。そして、画面を構成するものの大きさや配置について考え、大まかな画面構成を決め、線描材を使って線描をしている。

本時の指導にあたっては、初めに、児童自身が表したいことについてしっかりと把握して活動に取り組めるように、図工ノートをもとに前時の学習を振り返らせる。

次に、児童が表し方を考える上で参考となる作品を提示し、作者が表したかった気もちがどのように表してあるか、その表し方のよさについて考えさせる。

さらに、既習内容の中から、本題材の表し方に対する児童の発想を広げられるような資料を選択し、提示する。また、様々な材料や用具の特徴やそれを生かした表し方について、掲示資料や体験活動を通して学習したことを、資料を提示しながら想起させる。

そして、自分が表したい気持ちをよりよく表すための表し方を考える活動を行わせたい。その際、掲示物や体験コーナー、既習内容をもとにして、様々な材料や用具の特徴を生かした表し方の中から最適なものを選択させたい。

自分で表し方を考えることができない児童に対しては、児童が表したい気持ちをもとにして、数種類の表し方を紹介したり、具体的に体験させたりすることで、児童自身が考え、表し方を選んでいけるようにする。

最後に、自分が表したい気持ち、それを表すための表し方について確かめるために、本時の活動を振り返る活動を設定する。振り返りカードに、選んだ表し方のことや活動についての感想・質問などを記入させる。そして、記入したことについて数名の児童に発表させ、友達の活動を自分の活動の参考にできるようにする。

本時学習における指導事項・評価規準・指導方法

	学習活動	具体的評価規準	指導事項	指導方法
導入	<p>1 自分が絵に表したい気持ちを確かめる。</p> <p>2 本時のめあてを確認する。 めあて 自分の気持ちを、どこにどんなあらわし方であらわすか、考えよう。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 前時までの学習をもとにして、表したいことを確かめている。(関) 表し方を工夫した児童の作品をもとにして本時のめあてを確かめ、本時学習の見通しをもっている。(関) 	<p>前時までの学習活動を振り返り、表したい気持ちを明確にもって本時の学習に臨むこと。</p> <p>参考作品から、表したい気持ちをよりよく表すためには、表し方の工夫が必要であることを知ること。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 図工ノートや振り返りカード、線描きをした作品を見ながら、表したい気持ちを確かめさせる。 児童が表し方を考える上で参考となるような作品を提示し、作者が表したかったことについて考えさせる。そして、表し方のよさに気付かせる。
展開	<p>3 様々な材料・用具の特徴や、それを生かした表し方について、既習内容をもとにして確かめる。</p> <p>(1)本題材までに学習した内容について振り返る。</p> <p>(2)様々な材料・用具の特徴や、それを生かした表し方について、資料や既習内容をもとに確かめる。</p> <p>4 表したい気持ちを表すために、材料や用具の特徴を生かした表し方を生かして、自分の表し方をつくりだす。</p> <p>(1)様々な材料・用具の特徴を見付けたりかわり方を考えたりしながら、表したい気持ちが一番表れる部分の表し方を考える。</p> <p>(2)様々な試した中から最適だと思う表し方を決める。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 様々な材料・用具の特徴や、それを生かした表し方を生かすことによって、多様な表し方ができるということを見付けている。(発・構)(鑑) 最も表したい気持ちを表すための表し方を考えている。(発・構) 表したい気持ちをよりよく表すのに適した表し方を選んでいく。(発・構) 	<p>既習内容や提示資料をもとにして、様々な材料・用具の特徴や、それを生かした表し方を生かして、多様な表し方をつくり出せるということを見付けること。</p> <ul style="list-style-type: none"> 様々な材料・用具の特性を生かした使い方 描画材(パス・絵の具・色鉛筆・ペン)の使い方 <p>様々な材料や用具の特徴を生かした表し方をもとにして、自分が表したい気持ちを表すのに最適なものを考えること。</p> <ul style="list-style-type: none"> 様々な材料・用具の特性を生かした使い方 描画材(パス・絵の具・色鉛筆・ペン)の使い方 	<ul style="list-style-type: none"> 本題材までに学習した題材については、本題材の児童の表し方の選択をより確かにするために有効なものを選んで提示する。 教室背面に設定した様々な材料とそのかわり方の資料コーナーをもとにして、表し方について考えさせる。 試した様々な表し方が、自分の気持ちを表すのに適しているかどうかを考えさせ、その結果を図工ノートに書かせる。 児童が様々な表し方の自分の気持ちへの適合性を判断する基準となるように、初めはパスを使った表現を試させる。 自分で表し方を考えることができない児童に対しては、児童が表したい気持ちをもとにして、数種類の表し方を紹介したり、具体的に体験させたりすることで、児童自身が考えられるようにする。
終末	<p>5 本時学習を振り返り、次時の学習の見通しをもつ。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 自分が考えた表し方のよさを見付けていく。(発・構) 	<p>自分が表したい気持ちと考えた表し方の適合性を確かめること。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 振り返りカードに、考えた表し方のことや活動についての感想・質問などを記入させ、数名に発表させる。